



授業研究会を終えて

11月28日(水)、29日(木)の二日間に亘り、本校と訪問学級の授業研究会を行いました。授業者の先生方には時間をかけて単元や授業の検討、指導案の作成をいただくとともに、当日も熱い思いのあふれる授業を提供してくださり、ありがとうございました。また、運営に協力していただいた全ての先生方、指導助言をいただいた講師の先生方にも感謝申し上げます。

二学期の間に残り数回、グループ研があります。充実した時間にしていきましょう。



本校では、中学部・高等部の授業を見ていただいた後、午後から小学部下学年の授業を二本、相互参観しました。各グループ協議も白熱した様子で、オーダーに対する様々な意見やアイデアが出されました。竹林地先生からは、本校の授業や研究に対しての意味付けを丁寧にしていただきながら、今後の授業づくりの方向性に繋がる指導助言をいただくことができたと思います。

竹林地先生より



- ・子ども自身が取り組む意味や価値を実感できる授業づくりをめざそう。
- ・「やりたいこと」や「なりたい自分」を中心に単元計画を練りあげよう。
- ・「体験」を「経験」に。「探求のサイクル」を回していくと授業に深まりが。
- ・まだ教員が手や口を出しすぎ？子どもにできることはもっとさせてみては。
- ・子ども同士が教え合うことで理解がさらに深まる。相互評価も大事に。
- ・「なぜ？」という問いかけをし、子どもの思考を掘り下げてみる。
- ・年齢が上がるとともに支援の量は減らしつつ、質を上げていこう。
- ・デザインシートは考えていることを表に出しやすくする上で良い取組だ。

訪問学級では、ベッドサイドでの日常生活の指導を公開しました。授業後は参観者も交えてオーダーについての具体的な協議が行われ、講師の三木先生からも授業に即した具体的な助言のみならず、学校と病院との関係性の在り方等についてもお話を伺うなど、有意義な時間となりました。

三木先生より



- ・即時的に子どもの変容が期待されるものではないが、例えば3年間かけて毎日継続して指導すると、快・不快や人との関わりが分かるようになる。
- ・子ども達の生活の質を高めるために何をするのかということが教育の本質だと思う。歌を歌うこと、マッサージをすること等を通して、子どもが「ああ気持ちいい」と思うことが大切。
- ・一度に刺激が多すぎると子どもには分かりにくい。声かけをする時にはiPadのボリュームをオフにする等、メリハリをつけることが大事。

(その他)本校のグループ別授業研究会は東京都立光明学園の「授業者支援会議」を参考にして考案したものです。参考資料を研究部員の先生から提供していただきましたので御覧ください。